

令和8年度 開南大学夏期中国語/英語・台湾文化研修 報告書

総合管理学部総合管理学科2年

西田 拡子

私は、8月16日から31日までの約2週間、台湾の開南大学で実施された研修に参加した。研修では、主に午前中に授業を受け、午後には文化体験や観光を行った。

授業では、台湾の建築物や食文化などをテーマとした英語教材の8つのUNITを読み、問題に取り組んだ。先生方は教材に書かれている内容だけでなく、その背景知識についても英語で詳しく説明して下さった。例えば、小籠包の製造方法や、台湾に暮らす16の原住民族の特徴について、写真や動画を用いながら分かりやすく教えていただいた。プログラムの中には原住民族をテーマとしたキーホルダー作りもあり、色や模様に入められた意味を授業内容と関連付けながら制作することができ、より深く文化への理解を深めることができた。



特に印象に残っているのは、「大溪老茶廠」と「松山文創園區」を訪れたことである。これらはそれぞれ日本統治時代に建設された製茶工場とたばこ工場であり、現在も当時の姿を残して活用されている。私はこれまで学校の授業や書物を通して日本統治時代の台湾について学んできたが、実際にその時代の建築物を目の前にしたことで、歴史をより身近に感じる事ができた。日本人として複雑な思いを抱く部分もあったが、こうした場所を訪れる機会を得られたことは非常に貴重な経験であった。

また、チューターの方から、台湾には現在も日本統治時代の建築物が数多く残されていることを教えていただいた。特に温泉施設はその代表例であり、かつては各地に存在していたものの、現在では数が減り、観光資源として活用されているそうである。

さらに、私の住む熊本県大津町では、TSMCの進出に伴い台湾の方々の移住が増えている。このことを学生ボランティアやチューターの方々に話したところ、多くの方が大津町について知っており、授業でもTSMC本社が紹介されるなど、台湾とのつながりを身近に感じる事ができた。

成果発表会では、私たち英語クラスは5曲の英語の歌を全員で披露した。限られた練習時間の中で協力しながら準備を進め、本番では素晴らしいステージを作り上げることができた。この発表は、研修期間中の仲間との絆を深めるとともに、最も思い出に残る出来事の一つとなった。



今回の研修を通して、台湾の文化や歴史について理解を深めることができただけでなく、英語でのコミュニケーション能力の向上にもつながった。また、現地の学生や先生方との交流を通じて視野を広げることができ、大変有意義な2週間となった。この経験を今後の学習や将来に生かしていきたい。